

米国サニーベール市を夏訪問 九工大留学生と英語研修

飯塚市の中学生20人

現地でより深い経験を

夏休みに米国カリフォルニア州のサニーベール市を

訪れる飯塚市の中学生が28

日、九州工業大情報工学部

（同市川津）の留学生と英語を使ったコミュニケーション

研修に臨んだ。渡航前に外国人との交流に慣れる

ことで現地でより深い経験を積んでもらおうと、派遣

3年目で初めて実施した。

両市は2013年12月の

友好都市協定締結後、子どもたちを相互に派遣して現

地家庭にホームステイさせる交流事業を始めた。今年

も6月にサニーベール市から14人が飯塚市を訪れ、同

市からは8月に1～3年生20人を派遣する。

市教育委員会はこれまでの派遣でも、中学生が事前に外国人と英語で交流する時間を設けてきたが、出発直前だったため効果は限られ、滞在先で英会話に戸惑ったり、日本人同士で固まったりする生徒もいた。

このため、今年は出発の約2カ月半前に九工大での研修を企画した。市教委の担当者は「自分の語学力が分かれば出発までに準備ができる。留学生は地元にいるから、積極的な生徒なら個別に交流を深めることも可能」と語る。

この日はインドやベトナムなど6カ国の留学生15人と交流。緊張や照れから、ほとんど英語が出てこない生徒もいたが、身ぶり手ぶりを交えて話しかける姿も見られた。嘉穂高付属中2年の村山耕太郎さん（13）は「分らないこともはつきり口にするので相手の対応が変わった。自分の意志を伝える大切さを学んだ」と話した。（糸山信）